

令和4年度 第56回 中学生の「税についての作文」
まちだ納税貯蓄組合連合会優秀賞

「税金と災害復興」

町田市立忠生中学校 3学年 蘭部 大歩

これは私がまだ小学生だったときの話だ。私には古くからの友人がいた。彼とはとても親密な仲であった。

そんな彼から、ある日に引越しをすると告げられ、私は突然の報告に驚きを隠せなかった。場所は北海道の胆振という場所。とても遠いところに行ってしまうことを知り、私はひどく悲しんだ。最後の別れを言うために父と空港まで彼らを見送った。最後だからと、せめてもの笑顔で私は彼へさよならと言ってやった。彼はとても嬉しうだった。

その約半年後、私の耳にとあるニュースが流れてきた。午前三時七分ごろ、北海道の胆振という場所で震度七の地震があったそうだ。震度七は、震度階級でもっとも高い震度らしく、北海道で観測されたのは初めてだったらしい。私はそこに住んでいる彼が無事でいるかどうかが本当に心配だった。すぐに彼へと電話をかけたが、何度かけても繋がらなかった。とても不安だった。更にその一ヶ月後、彼から連絡がきた。私は、まず彼が生きていることに安心したが、彼はひどく大変そうな状態であった。地震によって、住む場所も、食べるものも、いろんなものを奪われたと言っていた。私の不安はまた大きく膨み、彼がこれからどう生活していくのかは私にとって全く分からなかった。しかし、そのことに関してはあまり問題はないと彼から言われた。どうやら、日本には税金という制度があるらしい。消費税とか、所得税とかだと聞かされ、私はやっとピンときた。その税金が、災害復興にどうやら役立つらしい。

確かに、過去に起こった東日本大震災など、日本では数多くの地震が過去にはあった。それらに被災してしまった人々は、一体どうやって普段の生活に戻っていったのだろうと疑問に思うときはあった。このような、日本全体で解決するべき問題に対し、税金というのは使われているのだと納得した。

過去にあった東日本大震災にも、税金は使われていたのだろうかと疑問に思いいざ調べてみると、発生からの十年間でおよそ三十二兆円もの復興予算が投入されたと書いてあった。そんなにも莫大な量の税金が使われていたとは、私はとても驚いた。どうやら、今でも胆振地方では復興が進んでいないところが多々あるらしい。しかし、税金などの様々な取り組みのおかげで、彼は今も周りの人達と元気にやっているそうだ。

このように税金は、私達が大切な今を生きるために使われているのだと知ることができた。消費税が上がって払わないといけない金額が増えたときに、イヤだと感じることも何回かあったが、その全ては社会のために使われているということが深く理解できた。改めて、税金とは非常に大切なものだとして認識することができた。